

弔辞

著者	相田 利雄
雑誌名	社会労働研究
巻	45
号	3
ページ	1-2
発行年	1999-03
URL	http://hdl.handle.net/10114/00015384

弔 辞

法政大学社会学部長 相 田 利 雄

森先生。

我々社会学部の教職員は、先生の突然の訃報に接し、驚き、かつ悲しんでおります。先生は、奥様が亡くなってお体を壊し、病床にあり、休職されておりました。私は、その後退院され自宅で一人で暮らされており、近所の方々の援助も受けて、病状は回復の方向に向かっている、と聞いておりました。その矢先に先生の訃報を聞きショックを受けております。しかも、亡くなる前日に、多摩キャンパスに来られたと聞いて一層驚いております。

森先生は、富山県に生まれ、育ち、一九五五年に法政大学法学部に入学しました。その後、法政大学大学院社会科学部研究科私法学専攻に進まれ、一九六四年に博士課程を修了されました。法学部助手を経験してから、一九六五年より法政大学第二教養部専任講師として教鞭を取りはじめ、七六年に教授に昇格されました。そして、社会学部が八四年に多摩キャンパスに移転した際に、社会学部に移籍され、今日まで我々の同僚としてお仕事をされてまいりました。

先生は、『水の法と社会』（法政大学出版局、一九九〇年）をお書きになりました。この著作はこのテーマに関する我が国での最高水準の労作です。※この著作により先生は平成二年度日本農業法学会賞を受賞され、かつ法政大学より一九九一年度法学博士号を取得されました。

平野先生が学部長をされていた一九八九年度から一九九〇年度には教授会主任を勤められました。

先生は、何事にも打ち込み、本場物を追求するタイプでした。漢詩に詳しく、そのため、あごに髭を貯えるようになりました。趣味の一つに、釣りがあり、海釣りを楽しんでいらしたようです。囲碁も先生の趣味の一つでした。お家には、インコを沢山飼い、それぞれに名前をつけて我が子のようにかわいがっていたと聞いています。お酒が好きで、全国の銘柄を詳しく知っていました。

先生は、ぼくとつな人でしたが、おしゃれでした。海外留学をされたときに、スイスで手に入れた緑の Tracht (トラフト…伝統的衣装) を着ていた先生の姿を忘れることはできません。

社会学部の教職員は、先生とお別れすることが無念です。今は、先生のご冥福をお祈りし、他界での再会を期待しております。

森先生。さようなら。

(一九九八年二月二三日)